

## 平成22年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	雨よけ無加温栽培におけるパプリカの栽植様式、かん水、着果管理等栽培管理方法	
[要約] パプリカの雨よけ無加温栽培では、株間40cmの4本仕立てとし、かん水は気象条件に合わせて調整する必要があるものの、土壌水分pF1.7~2.0程度を目安に水分管理を行う。また、果実の収穫は主枝のみから行い、側枝は2節を残して摘心する。				
キーワード	パプリカ	雨よけ無加温栽培	栽培管理方法	技術部園芸研究室

## 1 背景とねらい

パプリカは、主要な青果物として定着し、業務向けにも安定した需要が見込まれ、施設園芸の新たな品目として期待される。また、パプリカは高温に弱く、西南暖地における夏秋期生産は困難とされているため、夏季冷涼な本県の気象特性を利用し、昨年からJAいわて中央管内を中心に導入が進みつつある。しかし、本県にとって新規品目であることから、現地における慣行の栽培方法は確立されていない。そこで、本試験では、収量性が優れる各栽培管理方法について検討を行う。【平成19年度試験研究を要望された課題「施設園芸におけるパプリカの栽培技術の確立」(農産園芸課)】

## 2 成果の内容

- (1) 栽植様式は、定植や整枝等に要する作業時間が少ない株間40cmの4本仕立てとする(表1)。株間15cmの2本仕立てで商品果収量がやや優れるが(図1)、必要な株数が多く、販売額から種苗費を差し引いた金額はいずれもほぼ同等になる(表1)。
- (2) かん水は、気象条件に合わせて調整する必要があるものの、土壌水分pF1.7~2.0程度を目安に管理を行う。盛夏期にやや低温・日照不足傾向であった平成21年はあまり差がなかったが、高温傾向となった平成22年のpF2.3区で商品果収量が劣る傾向がみられた(図2)。
- (3) 収穫は主枝のみから行う。着果負担が大きく、1枝当たりに保持できる果数が少ないパプリカでは、主枝の着果が不良の時に側枝から果実を収穫しても、主枝のみから収穫した場合と最終的な収穫果数や商品果収量は変わらない(図3)。
- (4) 側枝は、2節を残して摘心した方が商品果収量が多い(図4)。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本試験では、品種「スペシャル」(果重180~190g程度)を4月上~中旬に定植し、11月中旬まで無加温で栽培を行った。
- (2) 本試験では、第2節まで摘果を実施し、第3節以降から収穫を行ったが、草勢が弱い場合は、より上位節の摘果等を実施する。
- (3) 本成果の内容は、平成21年度試験研究成果「雨よけ無加温栽培におけるパプリカの有望品種の特性」で示した品種については概ね適用できるが、果実の大きさが大きく異なる品種については再検討が必要である。
- (4) 本成果により、通常年で700~900kg/a、高温年で600kg/a程度の商品果収量が得られる。また、商品果率も90%以上と高く、高規格品の生産が可能である。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等  
県内全域の施設果菜類栽培指導者
- (2) 期待する活用効果  
パプリカの安定生産が可能となる。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(H20-06)新産地形成に向けたパプリカ等カラーピーマンの栽培技術の開発(H20~22、県単)

## 6 研究担当者

高橋拓也

## 7 参考資料・文献

- (1) 平成20~22年度岩手県農業研究センター野菜試験成績書(未定稿)
- (2) 平成11年度試験研究成果「カラーピーマンの品種別特性」
- (3) 平成21年度試験研究成果「雨よけ無加温栽培におけるパプリカの有望品種の特性」

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

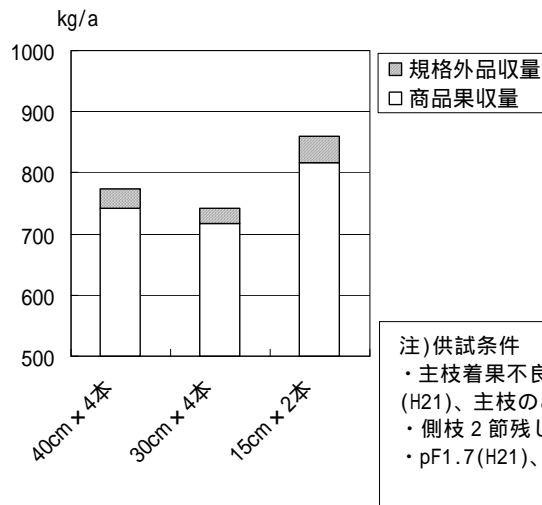


表1 各栽植様式における収支比較 (aあたり)

栽植様式	株数 (株)	種苗費 (円)	販売額 (円)	販売額 - 種苗費 (円)	定植作業 (分)	管理作業 (時間)
40cm × 4本	156	24,336	296,400	272,064	156	52
30cm × 4本	208	32,448	287,000	254,552	208	70
15cm × 2本	417	65,052	327,000	261,948	417	70

注)

- ・種苗費は、156円/株 (自根苗) とした。
- ・販売額は、図1の収量に単価400円/kgを乗じて算出した。
- ・定植時間は、苗運搬、穴開け、粒剤施用、定植、仮支柱設置を想定し、1分/株として算出した (雨よけハウスピーマン生産技術体系を一部参照)。
- ・管理作業時間は、誘引ひも設置、側枝摘心、摘花、誘引、主枝摘心の年間の実測値 (平成21、22年) から、5分/枝として算出した。

図1 栽植様式が収量に与える影響 (H21、22)

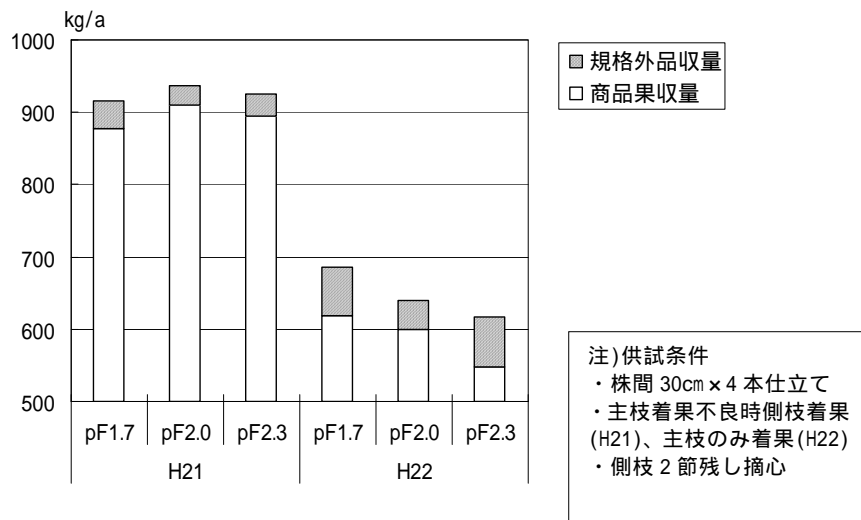


図2 土壌水分が収量に与える影響 (H21、22)

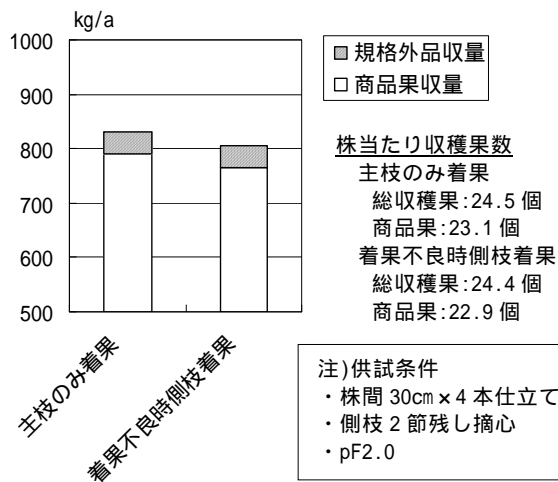


図3 主枝着果不良時における側枝果実の処理方法が収量に与える影響 (H21、22)

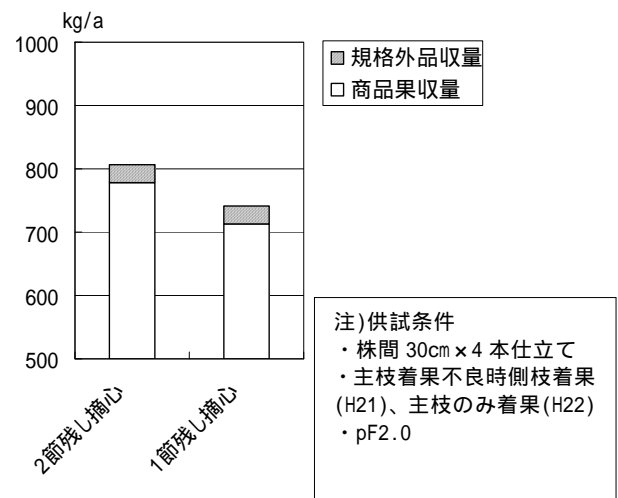


図4 側枝の摘心位置が収量に与える影響 (H21、22)